

1996年、電機通信大学の研究室と、NTTの研究所との共同研究によって明らかになったもので、とても興味深い実験結果があります。

これは漢字を見たときに、脳がどのように働くかということを科学的に調べたものです。「漢字」を見た場合は、左脳も右脳も一緒に働いていることがわかりました。

ところが「かな」の場合には、左の脳しか働かないのです。しかも、左の脳で働く部分も、漢字のときに働く部分とは、ちょっと場所が違うこともわかりました。

この研究ではっきりしたことは、われわれはものを見れば、漢字であろうとかなであろうと、見た瞬間に脳が働くだらうと思いついていたのですが、どうもそれは違ったようです。かなと漢字では、脳が働く始動の時間と場所が違うことがわかったのです。

つまり見た瞬間、といっても零コンマ何秒という時間ですが、漢字と“かな”を比べると、“かな”のほうが三倍も時間がかかるのです。ですから、漢字で育った子どもとかなで育った子どもとは、脳が動き出すスタートが違うのです。漢字のほうが三倍も速く活動を開始しているのです。

次の二つの文章を比べてください。どちらが早く、かつ正確に意味がわかるでしょうか。

「きょう、とうきょうえきにいもうとをむかえにいきます」

「今日、東京駅に妹を迎えに行きます」

零コンマ何秒という差はささいな違いじゃないかと思われるでしょうが、とんでもないのです。本を読み出すようになってから、スピードに三倍の違いがあるということは大変な違いです。

私は脳を専門とする学者ではありませんから、くわしいことはわかりませんが、三倍も早く脳が動き出すということは、脳全体の性能も違うように思えてなりません。

私たち大人は“かな”から学習したので、字を見て頭が働き出すのがいつも鈍いのです。そういう意味でも、幼児から漢字教育を始めることは大切です。

**ポイント:**子どもというのはあるがまますと受け入れてしまう、全体的につかむのが得意です。私たち大人は、構成されている細かなものから認識を始めて全体をつかみます。ところが子どもは曖昧なものでも、ぼんやりとしたままでも、丸ごと呑み込んでしまうのです。